

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員が創和の介護の理念を把握し、実践できるよう会議・ミーティングを通して意識向上に努めている。	職員が評価事業により積極的に関わることで、自己評価やミーティング、目標設定の機会を多く取ることで意識付けできている。	創和の介護の理念を活かす為、利用者個々の援助計画に沿った介護の提供を目指し、職員は援助計画について把握しておく。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加する計画だったがお祭りに参加できたのみで不十分な内容だった。 地域ボランティア、中学生の職場体験等を行っている。	秋祭りには参加できたのでその点は良かったが、盆踊りや公民館で行われたイベント、清掃活動には天候や職員の問題から参加できなかった。	グループホームはどのような活動をしているのか地域の方の不明な点が地域のイベントに参加することで解消されようと考えられる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや中学生の職場体験を受け入れている。 運営推進会議を通じて介護に関する講習を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を実施している。 活動内容を紹介したり、介護に関する相談や質問に答えたり、身体拘束など介護に関する講習を実施している。	地域を代表する方に事業所の中を見ていただき、意見交換をすることで、事業所の現状を知ってもらうだけでなく介護保険や身体拘束、認知症について理解を深めていただくよい機会になっている。	家族の参加について実践できていない。 より一層、介護保険・グループホーム・身体拘束について理解を深められるよう工夫する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括の参加がある。	市や地域の居宅ケアマネと連絡・情報交換などを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保を優先し、玄関は施錠しているが、最小限に留めて不安の解消に努めている。	運営推進会議で身体拘束について事業所の取り組み事例を紹介したり、講習を実施している。 境界線のような事例について職員のミーティングで検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いや介助の方法について声を掛け合い、注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で特定の者には研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って説明し、納得、理解を得た上で利用していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	写真付きの手紙を毎月家族に送付して状況を報告している。 電話や面会時等に家族と意見交換を行い、個別計画に反映できるようにしている。	家族に毎月手紙を送付し状況を伝えるだけでなく面会時や電話でも状況を伝えている。ターミナルケアや状況の変化の時にも意見交換を行い、個別計画に反映できるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見交換を行い、業務内容に反映させている。	毎月ミーティングを実施し、申し送り、業務日誌等で情報を共有し、職員間で業務内容に差が生じないようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から意見が出た場合、本社に伝え、改善してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、短時間ではあるが事業所内で研修を実施している。 法人内でも定期的に全体の研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で職員間の相互異動を実施して、技術向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から個人の情報を共有することで事業所での生活にスムーズに移行できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	より良い関係づくりができるように時間を積極的に作っている。また援助計画にも家族の要望や参加できる点について記載できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の面接、聞き取りから職員間で情報を共有し、安定した介助を実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される・するの関係だけでなくレクリエーションやイベントを通して同じ時間を過ごしている感覚で対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日々の様子をお伝えしている。毎月手紙を送付して状況をお伝えするとともに、変化があった場合には電話等で連絡している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や家族の面会時には穏やかに過ごしていただけるように配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味やレクリエーションを通じて、席の場所など配慮している。 職員が会話などで仲介することでよりスムーズに関係を築けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には定期的に訪問をして状況を聞き共有してる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のちょっとした変化や言葉についても個別日誌に記録している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を知ることで、今後の生活に活かせるように重点的に聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録に本人の言葉や表情・行動を記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで話し合い課題等を検討している。	職員は各利用者の個別計画についてより一層、把握して実践する必要がある。	各利用者の援助計画に沿った介護に提供を目指す。 職員は個人の援助計画を把握しておく。 状況の変化に適した援助計画の作成
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやメモで看護記録で情報を共有している。 本人の言動も記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員が利用者から外出の意向を聞き取り、喫茶店へ行く外出の行事を企画し、実施したり、家族に伝えて家族との外出につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	該当なし		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、必要な時に主治医に連絡して対応し、24時間対応の連絡体制をとっている。 マッサージの往診や歯科往診も必要な方は行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な問題は看護師に報告相談をしている。何かあればすぐに報告し、迅速な対応につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、かかりつけ医に相談し、本人にとってベストな対応ができるよう心掛けている。また、かかりつけ医とは些細なことでも相談できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化の場合の指針」として家族に説明を行っている。主治医と家族で終末期に向けた方針を話し合うこともある。	ターミナルケアの実践事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応に合わせてマニュアルを作成 かかりつけ医・看護師とすぐ連絡が取れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、消火訓練を実施している。	地域の方にも避難訓練を実際に見学していただいた。	夜間の火災など地域の協力が必要 防災計画について事業所だけでなく地域との連携も含めて防災課・地域との協議が必要。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者がより快適に過ごせるように職員一人一人が意識して業務に就いている。	開設後15年程度経っている為、設備や設計に改善点はあるが、快適に過ごしてもらえるように工夫している。	安全に配慮品が開放的な雰囲気、明るい生活感のある場所の提供を目指す。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や意向を重視している。しっかりと話をすることで無理強いすることがないようにできるだけ納得してもらってから動いてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて穏やかに過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身でできる方には鏡や櫛で身だしなみをととのえていただき困難な方も援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じテーブルに座り、利用者と一緒に会話をしながら食事をしている。	外部委託から系列事業所に変更となり、毎回検食簿に記入し、月1回会議を行いより美味しく健康的な食事の提供を目指している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少ない方についてはチェック表を使用して量を一定以上保てるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の口腔ケアを行っている。うがいができない方にはウェットティッシュを使用している。磨き残しがある方には仕上げ磨きも職員が行っている。歯科衛生士による訪問ケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄表を確認して、間隔があきすぎないように工夫している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が不足しないように水分補給を工夫している。 適度な運動を実施して自然な排泄を促している。 下剤や服薬も併用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決まっているが個々のタイミングや状況に合わせて柔軟に対応している。 入浴中も職員が付き添い会話をするようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝返りができない方については定期的に体位変換を実施している。 日中は長時間離床しないように昼寝の時間を作り、快適に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理を実施して誤薬・飲み忘れを防止している。 薬剤師と連携して服薬しやすい形状や薬の変更などをかかりつけ医と検討している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵・間違い探しをされる方、洗濯物たたみや洗濯干しを意欲的にされる方に合わせて対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な時には近隣へ散歩に出かけている。 普段から聞き取りを行いイベントとして車で外出することもある。	家族と話し合っって援助計画に家族との外出を計画することで家族にも外出支援に協力してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に沿ってふりかけ等個人的に欲しい物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月手紙を送付している。電話は家族からが多いが、希望があればこちらからも電話することもある。お正月には年賀状を送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって快適で居心地の良い環境づくりの為に花を活けたり、色々な写真や壁絵を掲示している。	毎月、利用者に協力してもらい壁絵を季節に合ったものに変更している。 動物や近隣の写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの利用者の席にこだわることなく職員が仲介することで快適に過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションの作品や外出した時の写真、家族の写真などを各居室に掲示している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子のバーの長さを調整するなどして無理のない範囲で自分のできるが増えるように支援している。		